

科目名	保育内容総論		担当教員	松本 信吾	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED4CCM501
期待される学修成果	子ども理解 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場の経験を活かし、子ども理解の実際や環境構成・援助の在り方などについて具体的に示していく。				
到達目標及びテーマ	本講義は、幼児教育・保育に関する具体的な知識、技術・技能を習得することを狙いとしている。具体的には、・子どもや子ども集団の発達の特徴や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。・子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。・保育の多様な展開について具体的に学ぶ。				
授業の概要	乳幼児の世界の奥深さ、豊かさを知ると共に、「保育」という営みの独自性、幼児期の発達の特徴に応じた方法や特別に対象である子どもに添いつつかかわる教育・保育であることについて理解する。また、具体的な事例を通してこれまで学んだ領域の理解や構造を統合し、実践的視点で保育内容を探究していく。講義形式だけではなく、主体的で対話的な学びを実現していく。				

授業計画	
第1回	保育内容の意味について理解する 保育内容の歴史の変遷
第2回	保育の基本と保育内容
第3回	保育所保育指針からみた保育内容
第4回	幼稚園教育要領からみた保育内容
第5回	保育所と幼稚園の1日：具体的な事例を通して保育者の動きを考える
第6回	遊びや生活を通して学ぶということについて
第7回	領域と保育内容について：領域って何だろう：心身に関する領域「健康」
第8回	領域と保育内容について：人とのかかわりに関する領域「人間関係」、言葉の獲得に関する領域「言葉」
第9回	領域と保育内容について：身近な環境との関わりに関する領域「環境」、感性と表現に関する領域「表現」
第10回	環境を通して行う保育（環境の多様性と可視化について）
第11回	保育における観察と記録（エピソード記述、ビデオ・写真の活用とドキュメンテーション）
第12回	保育内容の展開と指導計画の作成
第13回	保育内容と子どもの発達
第14回	家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育 子育て支援と保育内容
第15回	保育内容の課題とまとめ：長時間保育・特別な支援を必要とする子どもの保育・多文化共生の保育

事前学修	0.5時間	次回学修するキーワードを授業の最後に示す。それをもとに、自分なりの考えを描いたり、関連する概念を調べたりする。
事後学修	0.5時間	アサインメントはもちろん、学修した内容を自身の経験や学びと関連づけて文字化する。
フィードバックの方法	・授業後の振り返りシートへのコメントの記入など、授業者への学習支援を丁寧に行う。・振り返りシートなどから見えてきた疑問や質問などについては、個別的是もちろん、必要であれば全体でも振り返るようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	保育内容について理解を深め、既修の内容を活用し自分なりの論を展開することが出来るか評価を行う。
上記以外の試験・平常点評価	40%	・主体的で対話的な学習が展開できたか、ワークシ

		ートや参加姿勢などから評価を行う。・自己評価
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	なし
参考資料	随時資料を配付			